

物流の効率化とコスト削減への取り組み JA県域物流北相地区センター稼働開始

10月1日、JA全農かながわ総合対策室は、JA県域物流北相地区センターの開所式を行った。式は、相模原市内にある同センター内で行われ、全農神奈川県本部、JA相模原市、全農物流(株)の役職員ら30人が出席した。

JA県域物流北相地区センターは、JA相模原市の配達業務の効率化と、コスト削減による収支改善を目的に整備が進められてきた。これまで各支店で行っていた配達業務を全農物流(株)に委託することで、業務の集約と効率化を進めるとともに、JAの組合員訪問活動の強化を図る。

JA全農かながわの根倉修県本部長は「業務を受託する全農物流(株)に、JA相模原市から7人の職員に出向いただいた。JAの出向職員が配達員として顔を出すことで、組合員に安心感を与え、サービスの維持向上につながることを期待している。さらなる物流コスト削減のため、将来的にはJA神奈川つくい、JA県央愛川等近隣のJAで活用ができれば、と考えている。本日早速配送が始まるが、安全運転と組合員サービスに心がけて、業務にあたってほしい」と話した。

同センターは、JA相模原市管内の配送拠点として、肥料農薬等生産資材、主食(米)、生活品等を配送する。また、組合員の利便性向上を図り、自己取り拠点とし

ても活用する。

同センターの全農物流(株)金子悟センター長は「全農物流(株)の看板を背負い、配送のプロ集団であるという意識をもって、業務にあたって欲しい。組合員に『このセンターがあってよかった』と言ってもらえる物流センターを目指していきたい」と抱負を語った。



挨拶をする根倉修県本部長



生活購買品の知識・推進力アップを目指して 星野物産(株)で商品研修会開催

9月19日、JA全農かながわ生活課は、群馬県内の食品メーカー星野物産(株)にて、「第4回商品研修会」を開催し、5JAから21人が出席した。本研修会は、生活購買品の知識と活用方法を習得し、組合員への推進活動に役立てることを目的としており、JA生活事業担当者を対象に毎年定期的に開催している。

研修では、「乾麺」「ミックス粉」「ロングライフパン」が取り上げられ、各製品の特長について説明があり、10月よりリニューアルするエーコープ丸細うどんの試食を行った。

星野物産(株)は、小麦粉、そば粉、乾麺製造などを行っている食品メーカーで、秦野総合工場の閉鎖に伴い、エーコープ丸細うどんの新たな製造委託先となっており、今回乾麺製造工場の視察も行った。参加者が

担当者に質問を投げかける場面もあり、熱心に視察している様子うかがえた。

参加者は「工場見学や試食を行うことで、商品への理解や関心がより高まった。女性部での取り組みとしても検討したい」と話した。



エーコープ丸細うどんの試食をする参加者

農家対応力強化を通じた組織基盤強化を図る 農家対応力強化研修会実施

JA全農かながわ経営管理課は9月12日、平塚プレジールで農家対応力強化研修会を開催した。本研修会は、JAの総合事業としての機能発揮に向け、経済事業全般の知識習得による農家対応力強化を目的としたもので、県内JA職員、関連会社社員など合わせて36人が参加した。

本研修会は、第74回県農協大会決議において、JAグループのめざす姿の実現に向け「持続可能な協同組合としての組織基盤・経営基盤の確立と人づくり」を基本目標として設定したことを受け、令和4年度より実施されている。

当日は、県内農業の概要に加え品目情勢、トピックスのほか、本会職員が講師を務め、農家との対話に有効なツールとして各事業の説明を行った。参加者は「購買、販売事業について理解が深まった」「農業が分からないという悩みがあったが、組合員との対話ツールを

勉強できた」などと感想を語った。

事務局を担当した経営管理課は「今回の研修で学んだこと、得た情報を職員間で共有して欲しい。次年度以降も引き続き開催する予定のため、積極的に受講を呼びかけて欲しい」と話した。



研修を受ける参加者の様子

東部農機センターきたセンターで農機相談会開催 来場者に寄り添う姿勢で日々の課題を解決

JA全農かながわ東部農機センターきたセンターは、9月20・21日の2日間、同センター内にて農機相談会を開催した。農機メーカー4社が出展し、2日間でのべ70人が来場した。来場者の日常における農作業に関する悩み、課題に対し、同センター職員とメーカー担当者が相談をうけ、解決策の提案をする様子うかがえた。使用感を確かめるため、刈払機の体験をする来場者の姿も見られた。

クボタブースでは、新製品TERAST ST25(PC)の実演、試乗体験も行われた。TERAST ST25(PC)は今年10月から販売が開始されたトラクターで、新機能を搭載し従来よりも使いやすい仕様となっている。全型式で「シートベルトリマインダ」が搭載され、シートベルトを着用せずに走行すると警告ブザーが鳴り、シートベルトの着用忘れを防ぐことができる。

展示会事務局を務めた同センターの佐久間勝徳所長は「農作業等での労力軽減や、作物の栽培方法に適した農機具の相談ができる機会を開催する事で、農業振興の一助となればと思う」と話した。



(株)クボタの新製品TERAST ST25(PC)の実演を行う職員